

2015年 10月 16日

日本人口学会会員各位

日本人口学会第68回大会
大会運営委員長 黒須 里美
大会企画委員長 和田 光平

日本人口学会第68回大会のお知らせ

会員の皆様にはますますご清栄のことと存じます。

さて、日本人口学会は、第68回大会 *Linking Past to Present* を2016年6月11日(土)、12日(日)の2日間、千葉県柏市の麗澤大学において開催いたします。

大会では、下記の通りシンポジウムと各セッションを設定しました(趣旨等詳細は3ページ以降にあります。プログラム編成の都合により登壇者や演題等が変更されることもあります)。企画セッションにおける報告は組織者により編成されますが、テーマセッションでは報告が公募されますので、積極的にご応募ください。

今回、前日プログラムはありませんが、6月11日(土)の午後に公開シンポジウム「人口政策の成り立ちを考える ～*Linking Past to Present*～」が、麗澤大学(廣池千九郎生誕150年記念事業)と共催されます。また、会員総会、懇親会は6月11日(土)に開催されます。

日本人口学会 第68回大会 *Linking Past to Present*

	タイトル	組織者	備考
シンポジウム	人口政策の成り立ちを考える ～ <i>Linking Past to Present</i> ～	加藤彰彦・ 黒須里美	一般公開。麗澤 大学と共催。
企画セッション1	<i>Marriage and Family Building in Historical East Asia</i>	黒須里美	英語を使用。
企画セッション2	地域特性や個別環境による出生率格差を考える	早乙女智子	
企画セッション3	セクシャル・マイノリティに関する人口学的研究 ー日本における研究動向の今ー	釜野さおり	
企画セッション4	未婚者の現在と将来	水落 正明	
テーマセッション1	<i>Marriage and Family Building in Contemporary East Asia</i>	鈴木 透・ 黒須里美	報告者を公募。 英語を使用。
テーマセッション2	持続可能な開発目標 (SDGs) と人口開発問題のゆ くえ	林 玲子	報告者を公募。

各セッションの詳細は3ページ以降にあります。

セッション番号は、プログラム編成上、変更する可能性があります。

【出欠の登録ならびに報告の応募】

テーマセッション1、2 ならびに自由論題の報告の申込みの受け付けや大会への出欠に関する登録用Webサイトは現在準備中です。準備ができ次第(来月初旬の予定)、今回同様、学会メーリングリストを通じて改めてお知らせしますので、予めご検討ください。

なお、大会への参加は非会員でも可能ですが、テーマセッションや自由論題での報告には日本人口学会(または協定を締結している韓国・台湾・タイ人口学会)の会員資格が必要です。

また、シンポジウムと企画セッションの報告は公募ではありません。

【報告要旨集のWebメディア化】

実効性のある報告内容の情報提供を図るため、要旨等の報告内容の情報はすべてWebメディア(学会メーリングリスト、ホームページなど)を通じて閲覧ならびにダウンロードできるよう準備しております。これにより、今大会から報告要旨集の紙媒体による印刷・製本物の配布はいたしません(2015年9月理事会審議了承済み)。一部の会員にはご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどお願い申し上げます。Webメディアの閲覧、ダウンロードの方法、ならびに報告者の要旨等のアップロードの方法等、詳細は改めてお知らせいたします。

【各種のご案内】

会場への交通アクセスは下記リンク先をご参照ください。

<http://www.reitaku-u.ac.jp/about/access.html>

宿泊施設や参加費等のご案内は、改めてお知らせいたします。

【大会関連のお問い合わせ先】

テーマセッションの内容については下記の組織者へ直接ご確認ください。

- テーマセッション1 鈴木透(国立社会保障・人口問題研究所) suzuki-t@ipss.go.jp
- テーマセッション2 林玲子(国立社会保障・人口問題研究所) hayashi-reiko@ipss.go.jp

その他については下記までお問い合わせください。

- 大会企画委員会 (大会の企画内容について)
委員長: 和田 光平(中央大学) wada.00a@g.chuo-u.ac.jp
副委員長: 黒須 里美(麗澤大学) skurosu@reitaku-u.ac.jp
幹事: 増田 幹人(駒澤大学)・飯塚 健太(中央大学) demography2016@gmail.com
- 大会運営委員会 (大会の運営内容について)
委員長: 黒須 里美(麗澤大学) skurosu@reitaku-u.ac.jp
- 学会事務局(会員資格や入会手続き等について)
日本人口学会事務局(学会支援機構内) paoj@asas-mail.jp

シンポジウム（一般公開）

人口政策の成り立ちを考える ～ *Linking Past to Present* ～

日本人口学会・麗澤大学共催
廣池千九郎生誕150年記念事業

組織者：加藤彰彦（明治大学）・黒須里美（麗澤大学）
座長：原俊彦（札幌市立大学）

趣旨

本シンポジウムの目的は、第1次・第2次大戦の戦間期における人口政策の歴史的成立過程を検討して、「人口減少の危機」に直面した21世紀日本の人口政策—従来の福祉政策的な少子化対策を超える人口政策—をどう成り立たせていくかを考察することにある。

—昨年の大会では、公開シンポジウム「少子化対策のパラダイム転換—新しい家族政策へ」を行った。このタイトルで用いられた「新しい家族政策」という言葉には、出生促進策を軸とする家族政策という含意があったが、歴史を遠く振り返れば必ずしも「新しい」というわけではない。現在ユニバーサルな家族政策を実現しているといわれるフランスやスウェーデンの政策も、その起源をたずねれば、戦間期において、フランスは地政学的な危機に直面し、スウェーデンは「人口減少の危機」に直面して、出生促進政策として開始されたものである。現在の両国の政策メニューのほとんどは、その原型も含めれば、この時期すでにそろっているといっても過言ではない。

なぜ彼らは成功し、我々は失敗したのであろうか。報告と討論を通じて、歴史に学びつつ議論を深めたいと考えている。

報告

- 近世日本の出産管理—人口政策前史—・・・沢山美果子(岡山大学)
- フランス家族政策の起源—19世紀から第2次世界大戦—・・・報告者未定
- 戦間期スウェーデンにおける人口減少の危機とミュルダール(前史を含む)
・・・藤田菜々子(名古屋市立大学)
- 戦間期日本における人口問題と社会政策・・・杉田菜穂(大阪市立大学)

※報告が4本あり時間的制約が強いので、討論では、討論者をたてずに、報告者によるパネルディスカッションの形式で、21世紀日本の「人口減少の危機」に対して人口政策を成り立たせていくための示唆を各先生からいただき、フロアとの議論へと接続していくような形を検討している。

企画セッション 1 (報告者公募、使用言語:英語)

Panel session:

Marriage and Family Building in Historical East Asia

This session focuses on empirical studies of marriage and reproduction in East Asia during the 18th and early 20th century, utilizing micro-level longitudinal data. Evidence reveals that marriage in East Asia was early and universal although it was not directly connected to an early start of childbearing, and that the marital fertility was quite low for the early modern period. While East Asia shares many features that are distinct from the West, such as collective orientation of demographic decisions, age-gender hierarchy in household, importance of family succession, etc., there were also variations within the area. What are the similarities and what are the differences? Together with the discussants who work on contemporary demography in East Asia, we will discuss the implications of the findings of historical demography and the characteristics of East Asian family and demographic patterns, going beyond the dichotomous views of East vs. West or pre-modern vs. modern, and linking past and present.

*The session will be supported by Grants-in-Aid for Scientific Research (B) (JSPS KAKENHI Grant Number: 15H03139) "Comparative studies of family and demography in East Asia: An empirical approach using longitudinal micro-level data bases (PI: Satomi Kurosu)."

Organizer: Satomi Kurosu (Reitaku University)

Chair: Noriko O. Tsuya (Keio University)

Presenters:

Wenshan Yang (Academia Sinica, Taiwan)

Sangkuk Lee (Ajou University, Korea)

Cameron Campbell (Hong Kong University of Science and Technology)

Hao Dong (Hong Kong University of Science and Technology, Reitaku University) and

Satomi Kurosu (Reitaku University)

Discussants:

Jim Raymo (University of Wisconsin)

Toru Suzuki (National Institute of Population and Social Security Research)

企画セッション 2

地域特性や個別環境による出生率格差を考える

組織者: 早乙女智子 (産婦人科医)

座長: 未定

討論者: 佐藤龍三郎 (中央大学)

趣旨

国内の人口減少を食い止めたり、あるいは地域的には増加に転じることができるのはどのような要件なのだろうか。出生率の地域格差を考慮する切り口として、出産・子育て環境がどのように影響しうるかを、小児科医、産科医、保育環境専門家などの視点で探る。

交通の便や都市化の程度などが子どもを産み育てる環境の差として出生率の間接要因となることが考えられる。また同じような規模の自治体でも人的資源や制度の差によっても地域格差が生じる可能性が考えられる。

出生率が奇跡的な回復を遂げたとしても当面起こるであろう人口減少社会において、子どもを産み育てる人を支える資源にはどのようなものがあり、それらが地域ごとの出生率にどのようなインパクトを与えるのだろうか。小児科医、被災地支援、保育環境専門家等の立場から論じる。総論的な「少子化」対策ではなく、個々のニーズに沿った出生率増加の鍵をさぐる。

報告

- 小児科医から見た周産期医療と出生率 (未熟児室不足、不妊治療によるリスク増加、人員不足、訴訟対策) ……網塚貴介 (青森県立中央病院 小児科医)
- 被災地女性の健康と出産環境 (医療過疎、生活の不安定、放射能汚染、風評被害、女性の地位) ……吉田穂波 (国立保健医療科学院 産婦人科医)
- 保育環境の地域差と保育難民 (追加出産困難、保育園引っ越し、死亡事例、ワークファミリーバランス) ……猪熊弘子 (ジャーナリスト、東京都市大学客員准教授)
- 生殖補助医療が出生率に果たした役割とその地域格差 (体外受精による出生、不妊クリニックと体外受精実施数、出生前診断による中絶) ……早乙女智子 (産婦人科医)

企画セッション 3

セクシャル・マイノリティに関する人口学的研究

ー日本における研究動向の今ー

組織者・座長:釜野さおり(国立社会保障・人口問題研究所)

趣旨

これまでの日本の人口学において、セクシュアル・マイノリティが研究テーマとして取り上げられることはほとんどなかった。組織者が2011年に行った文献サーベイによると、「セクシュアリティ」の見出しがある、セクシュアル・ライツとの関連で同性愛と異性愛への言及がある、婚姻の文化的多様性の文脈で「同性愛主義者の結婚」への言及があるなど、事典・辞典で関連用語が散見される程度であった。しかし、近年日本においてセクシュアル・マイノリティの可視性が高まる中、これに関する研究がさまざまな学問領域で増えてきている。人口学においても、アプローチの面で「人口学」的な要素を持つセクシュアル・マイノリティに関する研究のみでなく、セクシュアル・マイノリティを正面から扱おうとする研究も行われている。そこで本セッションでは、こうした研究を紹介し、セクシュアル・マイノリティに目を向けることによって、人口学的知識に何がもたらされるのかを模索していきたい。

報告（報告タイトルは未定）

- 平森大規（ワシントン大学・院）
- 岩本健良（金沢大学）
- 藤井ひろみ（神戸市看護大学）
- 石田仁（明治学院大学）

他1～2名の予定

企画セッション 4

未婚者の現在と将来

組織者・座長:水落正明(南山大学)

討論者:筒井淳也(立命館大学)・西村 智(関西学院大学)

趣旨

近年、生涯未婚率が大きく上昇しており、この傾向は今後も続く見通しである。結婚するか否かは人々の選択にまかされており、様々な社会経済的要因によって、結婚しないという選択肢を選ぶ割合が増えたと言える。そうした人々の選択の変化を受け、これまで結婚意識や結婚行動の規定要因などについて分析がなされてきている。しかしながら、未婚者が現在どのように生活し、どのような将来設計をし、どのように満足しているのかについては、あまり注目されてきていない。未婚者のそうした現状と将来展望への視点は、必ずしも結婚意識や結婚行動への視点と双対をなすものではなく、固有の分析視点が必要である。そこで、未婚者の現在と将来を冷静に分析することで、少婚化社会において生じる問題やその対応策などについて探るのがこのセッションのねらいである。

報告（報告タイトルは仮題）

- 未婚者の経済生活 ……永井暁子(日本女子大学)
- 未婚者の仕事とシングル・フレンドリーな職場 ……水落正明(南山大学)
- 未婚者と将来不安 ……久木元真吾(家計経済研究所)
- 未婚者の老親介護予定 ……中西泰子(相模女子大学)

テーマセッション 1

Theme Session:

Marriage and Family Building in Contemporary East Asia

Focusing on contemporary East Asia, this session compliments the session on "Marriage and Family Building in Historical East Asia." East Asian countries experienced dramatic nuptiality and fertility declines after World War II. Some countries showed the lowest levels of TFR in the world after the turn of century. As a result, the level of aging in these countries will surpass that of Japan soon, making the region the most aged part in the world. Demographic research is required on the rapid changes in union and family formation in this region. Comparative perspective is preferable, if possible, to identify the uniqueness of East Asian experiences as well as the differences within the region. Although the main focus is on nuptiality and fertility declines in the 21st century, studies of long term perspectives on the first and second demographic transitions are also welcomed.

Organizer: Toru Suzuki (National Institute of Population and Social Security Research) •

Satomi Kurosu (Reitaku University)

Chair: Wenshan Yang (Academia Sinica, Taiwan)

Discussant(s) :

Cameron Campbell (Hong Kong University of Science and Technology)

Tsukasa Sasai (Fukui Prefectural University)

テーマセッション 2 (報告者公募)

持続可能な開発目標 (SDGs) と人口開発問題のゆくえ

組織者: 林玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)

座長: 阿藤誠 (国立社会保障・人口問題研究所名誉所長)

討論者: 池上清子 (日本大学)

趣旨

2015年9月下旬に国連にて「ミレニアム開発目標 (MDGs)」に代わり、新たな「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択された。MDGsでは、エイズ・マラリア・結核対策、リプロダクティブヘルス・ライツといった保健・人口分野の内容が中心であったが、新たなSDGsは、17にわたる広い分野をカバーしており、保健、教育の推進、ジェンダー平等以外にも、若者の雇用や出生届登録の完全普及、移民の人権確保、持続可能な都市化といった人口に関わる多くの点が盛り込まれている。一方、人口高齢化を含む人口変動 (Population Dynamics) や国際人口移動については、目標数値を設定することにはなじまない、という点から、SDGsの中に項目としては取り入れられなかった。

1994年のカイロ国際人口開発会議で採択された行動計画のうち、リプロダクティブ・ヘルスについては一定の成果が出てはいるものの、地域によっては家族計画率も低く妊産婦死亡率が高い水準にある国も多く残る。またリプロダクティブ・ライツ、さらにセクシュアル・ライツにおいては国際的な同意を得るには至っておらず、価値観の異なる国々の間で「人権」の解釈は一様ではなく、今後の課題となっている。

本セッションでは、これらカイロ行動計画の残された課題、SDGsにおける新たな視点、そして人口変動や国際人口移動と開発との関係など、人口学からみた「人口と開発」に関する、幅広い報告を募りたい。セッションを通じて今後15年間の国際的な開発の流れを、人口学の観点からどのように分析し、どのように役立てることができるのか、明らかにすることが目的である。